

井上壽博・英基父子展

— 四季彩 釉薬の流れにいろどりの世界 —

2018.6.1 | 金 — 6.29 | 金 午前9:00—午後5:00 平日・土・日 開館
筑波銀行つくば本部ビル2階ギャラリー

ごあいさつ

初夏の候、皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

筑波銀行第20回 ギャラリー企画展としまして、「陶芸家 井上壽博・英基父子展 —四季彩 釉薬の流れにいろどりの世界—」を開催いたします。

井上壽博先生は、昭和16年京都に生まれ、陶聖板谷波山の門下三世井上良齋に師事。青磁や白磁を探究され、独自の手法で四季折々の情景を表現した作品を次々と発表しています。昭和43年には日展で特選北斗賞を受け、その後も数々の賞を受賞。日本現代工芸美術展、日展を主な作品発表の場とし、創作活動を続けておられます。現在は、茨城工芸会顧問(第10代会長)、水戸美術家連盟理事長などの要職につき、茨城の芸術文化の発展、振興に大きな役割を果たされ、また、大子町に在住していた陶芸家故ゲルト・クナッパー氏との出会いがきっかけとなり、昨年創立30周年を迎えた茨城県日独文化協会を立ち上げ、日本とドイツの文化交流や両国の親善に貢献されています。

井上英基先生は、昭和45年水戸市に生まれ、ドイツに渡り

ペンドリン・シュタール氏に師事。釉薬を幾重にも重ね掛ける作品に大きな影響を受け、独自の釉薬の研究をされました。帰国後、研究を重ねた碧彩釉を用いて制作した作品を次々と発表。日本現代工芸美術展において新人賞を受賞し、第23回日本陶芸展では大賞・桂宮賜杯に輝いています。現在は笠間市に工房を構え、茨城を代表する期待の若手作家として県内はもとより、国際陶芸アカデミー(IAC)会員、一般社団法人現代工芸美術家協会本会員として中央、ドイツなど海外の展覧会でも活躍されています。

今回の企画展は、茨城を代表する二人の陶芸家 井上壽博先生、井上英基先生の初の父子展となります。企画展開催に際しまして、作品のご提供等ご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。四季の彩りに想いを寄せ、厳しくそして穏やかな自然の姿を表現した二人の陶芸家の世界を堪能していただきたく、両先生が自選した、新作を含む50点を一堂に展示いたします。

この機会に何卒ご高覧くださいませようお願い申し上げます。

2018年6月 筑波銀行